

校長室だより No. 25 4月9日(木)  
其れ恕か(令和2年度入学式)

入学式にふさわしい春らしい陽光溢れる中、令和2年度の入学式を行うことができました。卒業式と同じように入学生、保護者と教職員のみでの入学式とはなりましたが、高校生活の第一歩を無事に踏み出せたことを87名の新入生と共に感謝したいと思います。



式辞では本校の校訓「明朗 気概 思いやり」についての話をしました。この三つはどれも欠かせぬものだと思いますが、敢えて「どれが一番大切か」という問いを投げかけてみました。そうすることで意外とその本質にせまれるような気がします。

例えば孔子は『論語』の中で、弟子の子貢に「ただひとことで、一生行うに値する言葉がありますでしょうか」と聞かれ「**其れ恕か。己の欲せざるところ、人に施すこと勿れ**（それは思いやりの心ではないだろうか。自分の望まないことは、人にもしないことだ）」と答えています。「それは恕である」、と高所から断定しないで、「恕ではないだろうか」と弟子に投げかける孔子の姿勢にもとても魅力を感じ、論語の中でも私の好きな文章です。「恕」を思いやりと訳してしまうとその深まりがなくなってしまうような気がします。「己の欲せざるところ～」と孔子が続けた意を汲むと「自分の心と同じくらい人の心を大切にすること」とでも捉えるべきかもしれません。



私は「明朗」と「気概」は自分の「あり方」を示したものであると考えています。自分の心に正直（明朗）に新たな一歩を踏み出す「気概」がなければ人としての成長は望めません。ただ、どんなに明朗でどんなに気概を持っていたとしても、またどんなに学力が高く、素晴らしい専門性を身につけていたとしても、目の前の困っている人に手を差し伸べられない人間は「ひと」として欠けるものがあるのではないかと思います。

私はこのように校訓の中では「思いやり」を最も大切なものと考えているのですが、みなさんはどうでしょうか。ホームルームなどの時間を使い生徒たちに話し合いをさせたら、様々な面白い考え方、意見が出てくるのではないかと思います。

「明朗 気概 思いやり」という校訓をこれからも大切にして、生徒の生きる指針となるよう、機会があるごとに生徒に話をしていきたいと思います。